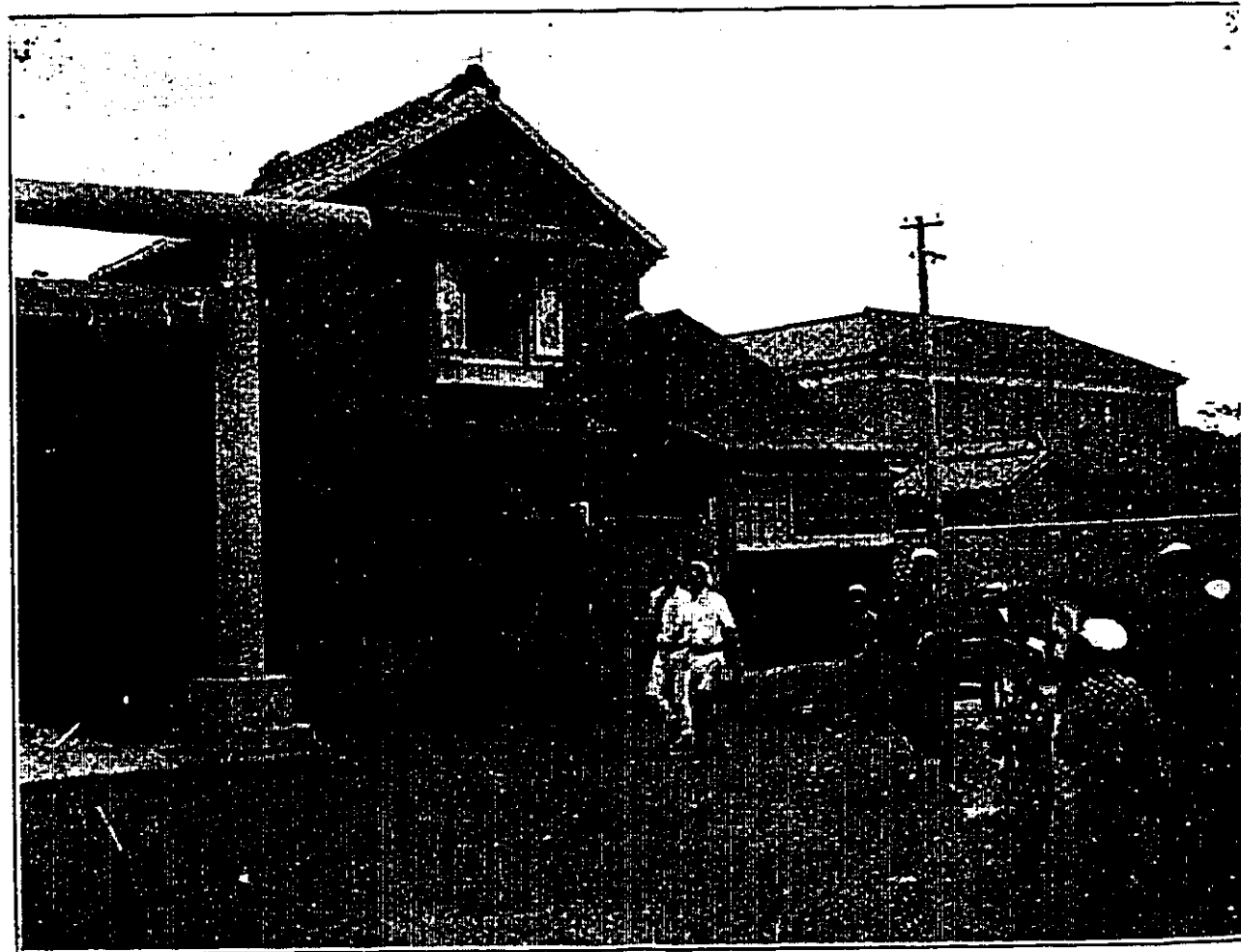


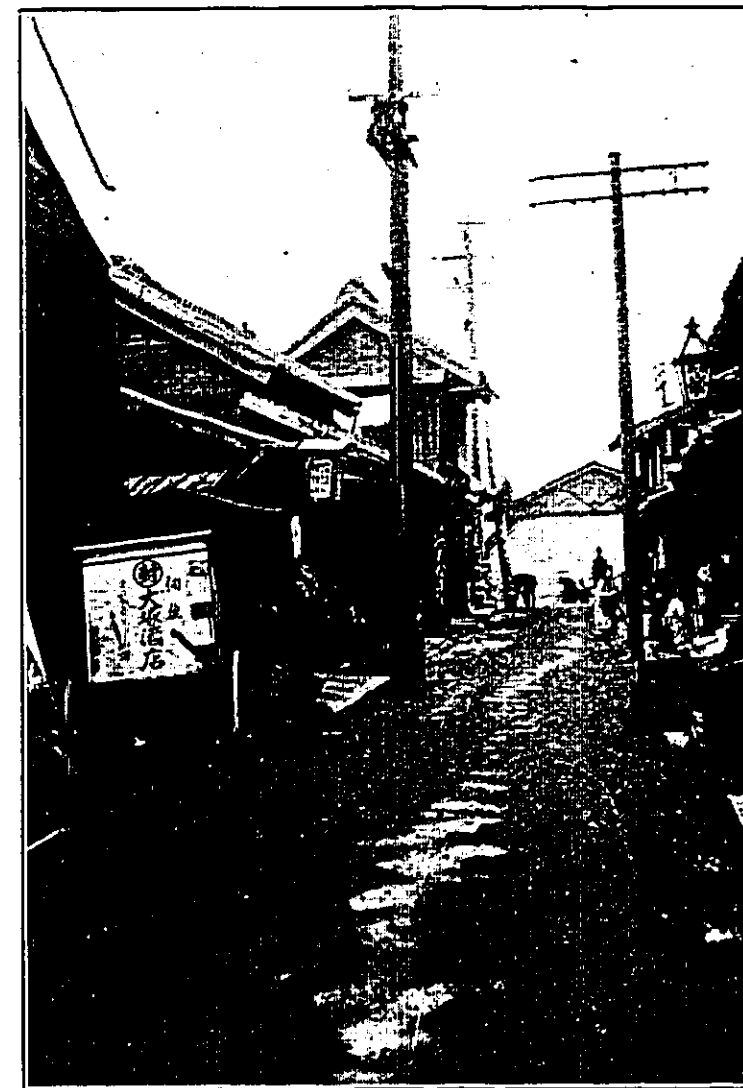
域地莊別圖九第



(御町原田小南區橋京)口入場船渡國勝 圖十第



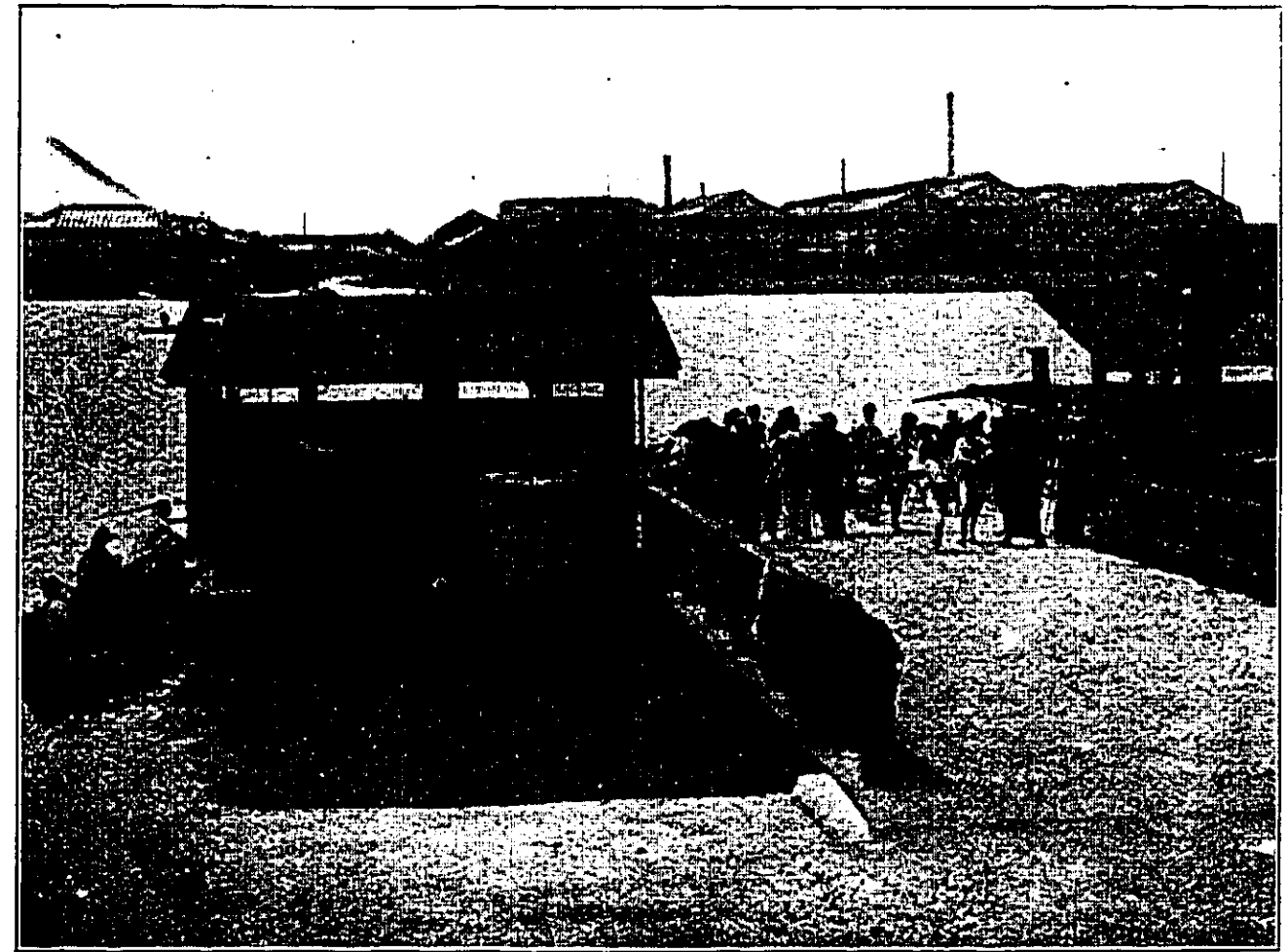
觀外島佃圖七第



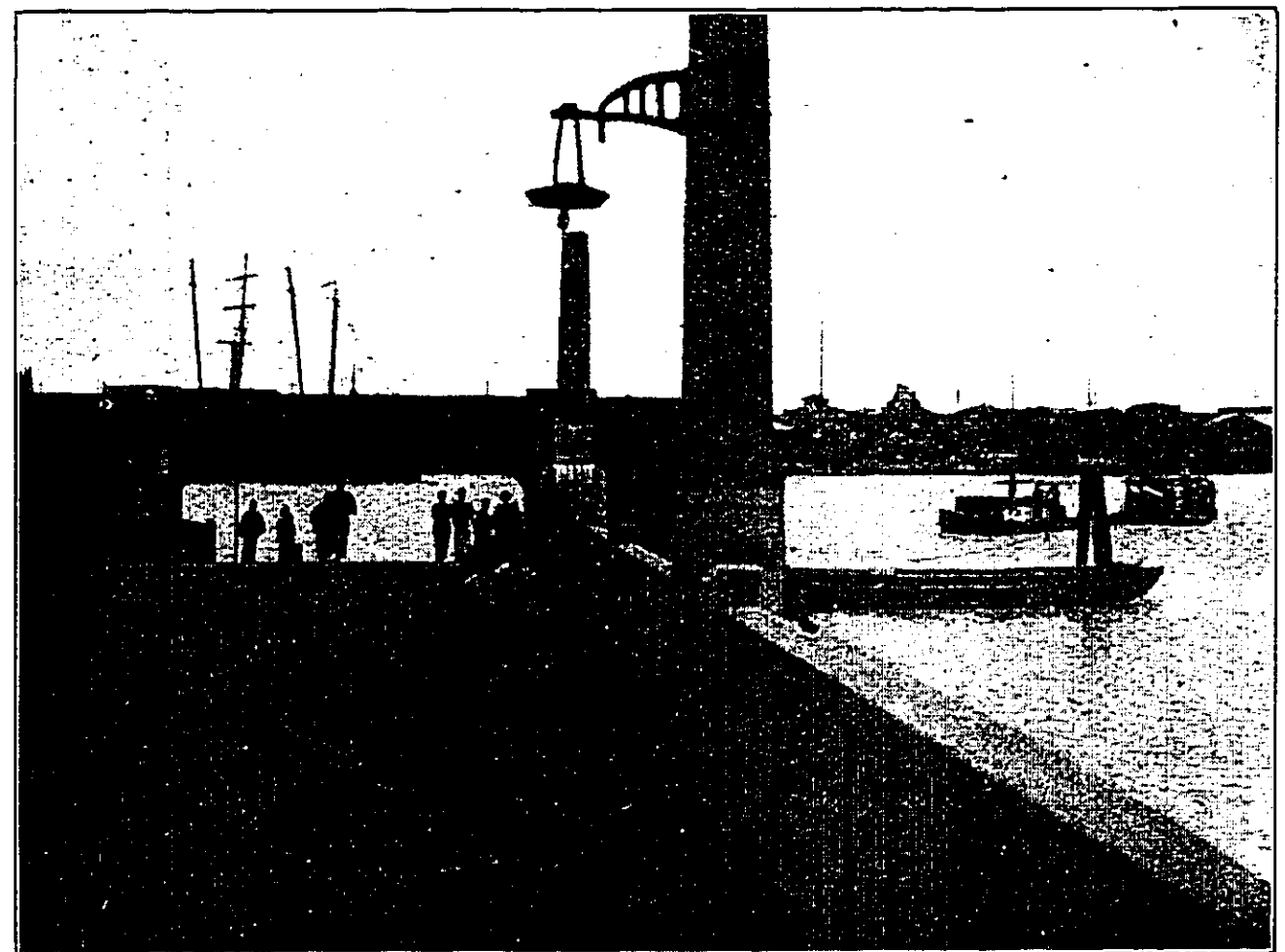
路街島佃圖八第



所業營車動自合乘島月 圖三十第



(岸西地號二島月)場船渡関勝 圖一十第

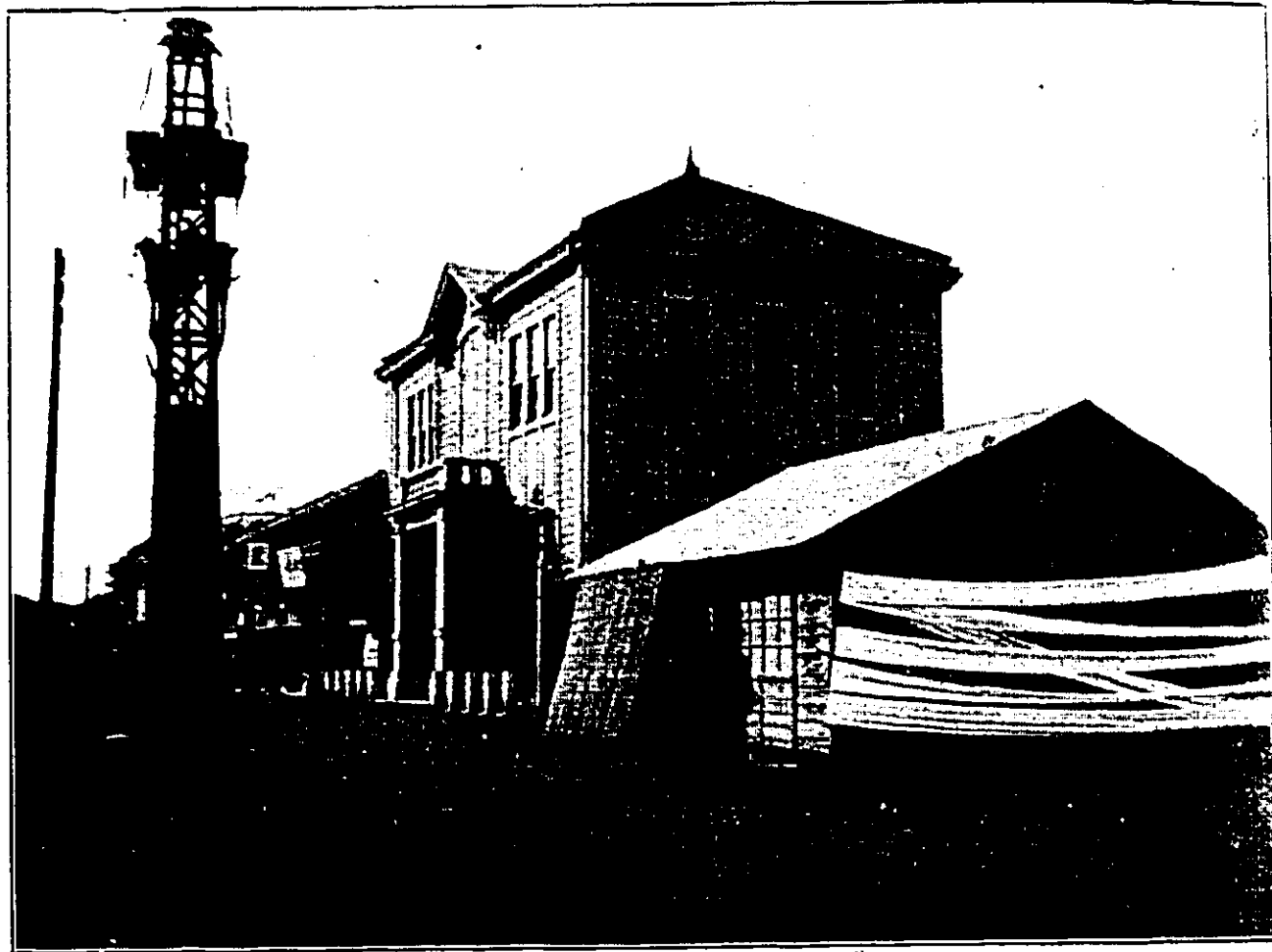


(む望りよ岸川町石明區橋京)場船渡島月 圖二十第

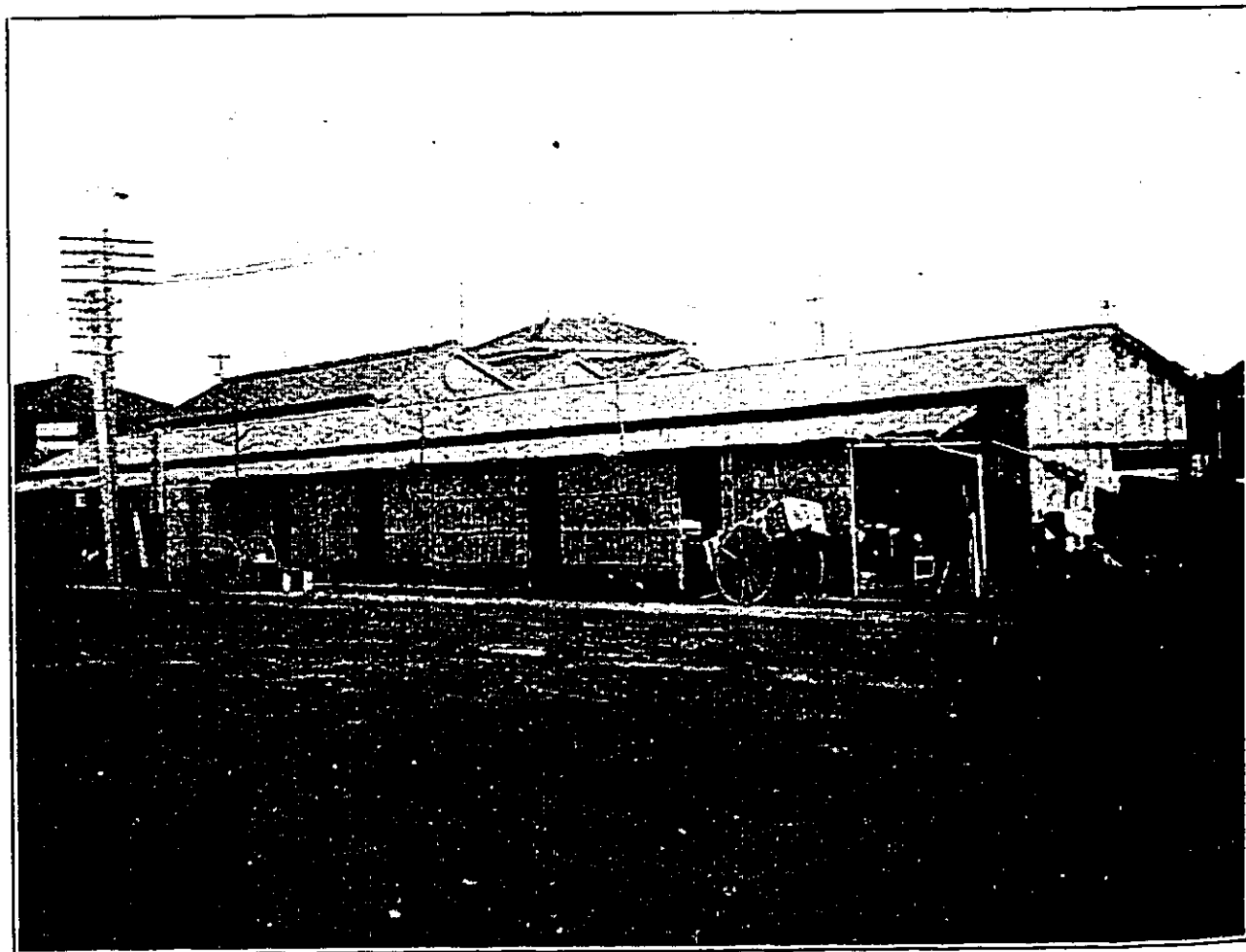
第二、官衙及び公共的設備

月島に於ける官衙及び公共的設備として數ふべきものゝ中に、月島警察署は全島を中心、月島一號地月島通四丁目の西側にあり、舊警察署は大正六年九月三十日夜の海嘯にて破壊されし後久しく假建築内にて事務を採り居たるが、大正九年に至り現在の地に新築を見たものである。警察署と相對して東京市公設市場がある。消防署は月島二號地の月島橋畔に、水難救済所は月島二號地の南角、品川灣に面してあり。救世軍勞働寄宿舎も亦、月島二號地にあつて救世軍會館と隣接してゐる。月島二號地には又、其の西岸、勝鬨渡船場の埠頭に東京税關支署月島監所がある。學校は月島一號地に月島第一尋常小學校、佃島小學校あり、月島二號地には月島第二尋常小學校がある。尙ほ月島第一尋常小學校内には東京市月島簡易圖書館があり、月島第二尋常小學校内には月島實業補習夜學校がある。外に月島一號地には小規模なる一幼稚園あつて、ミツシヨンの經營にかゝる。

外に信教に關する設備がある。其の中殊に廣く行はれてゐるは眞宗であつて、築地本願寺は月島に少なからぬ勢力を占めてゐる。



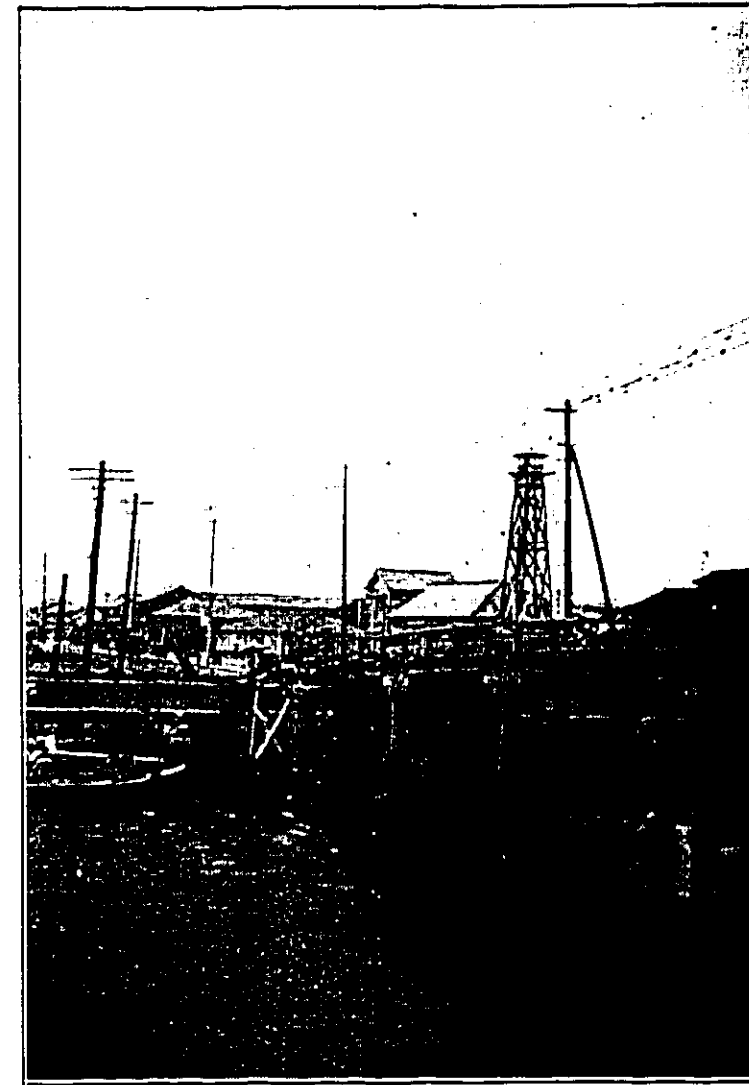
署 察 警 島 月 圖 四 十 第



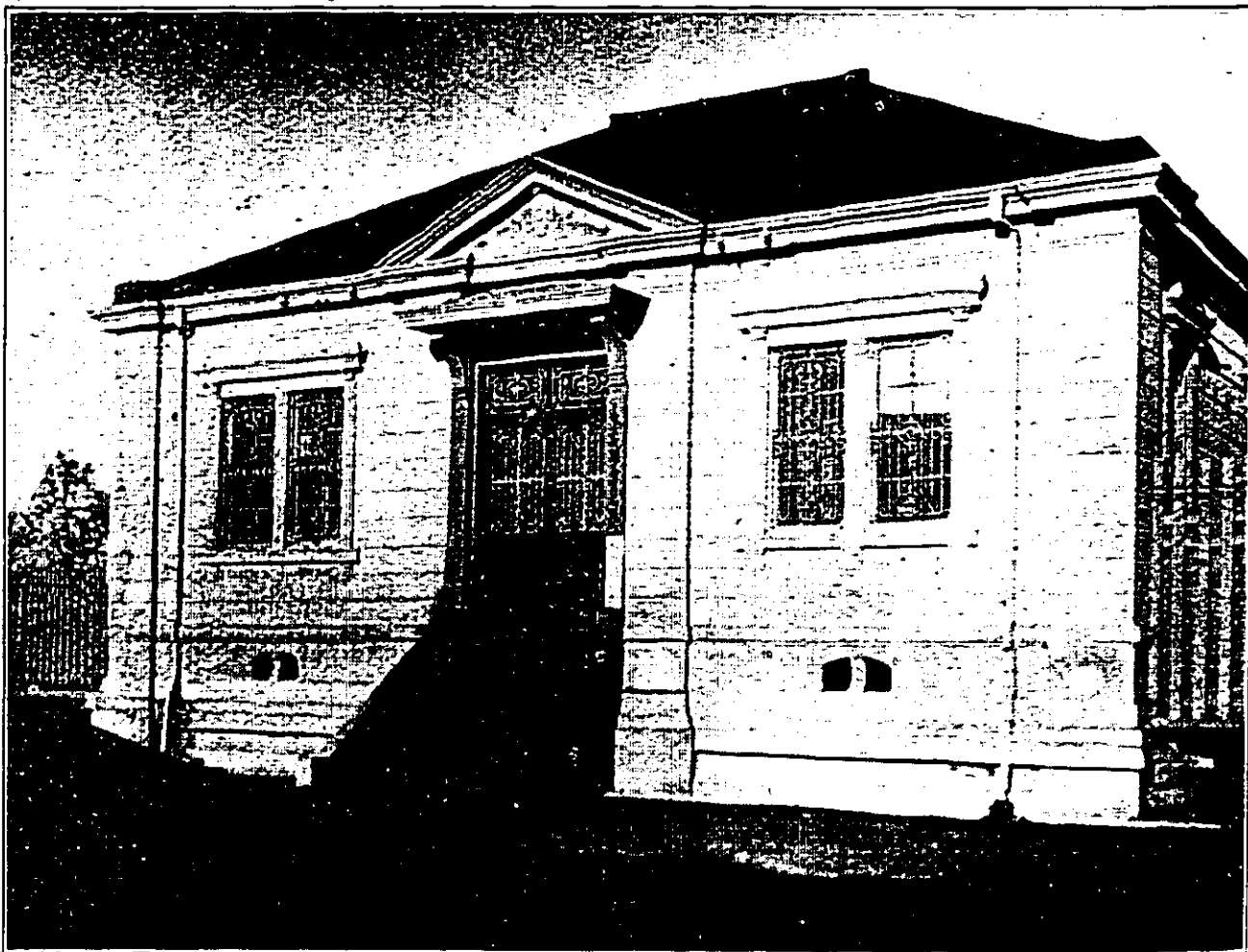
場 市 設 公 圖 五 十 第



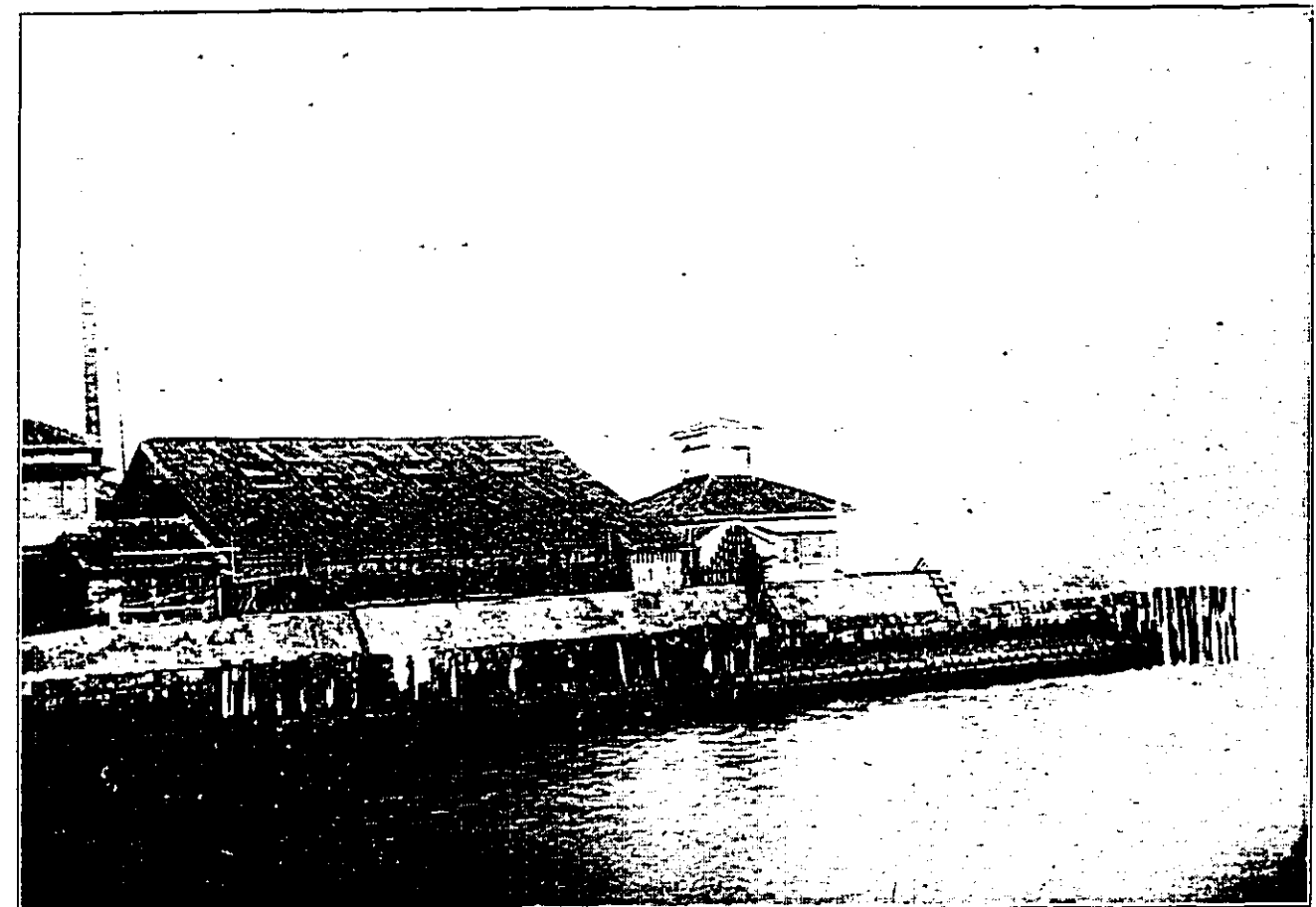
舍宿寄働勞軍世救 圖八十第



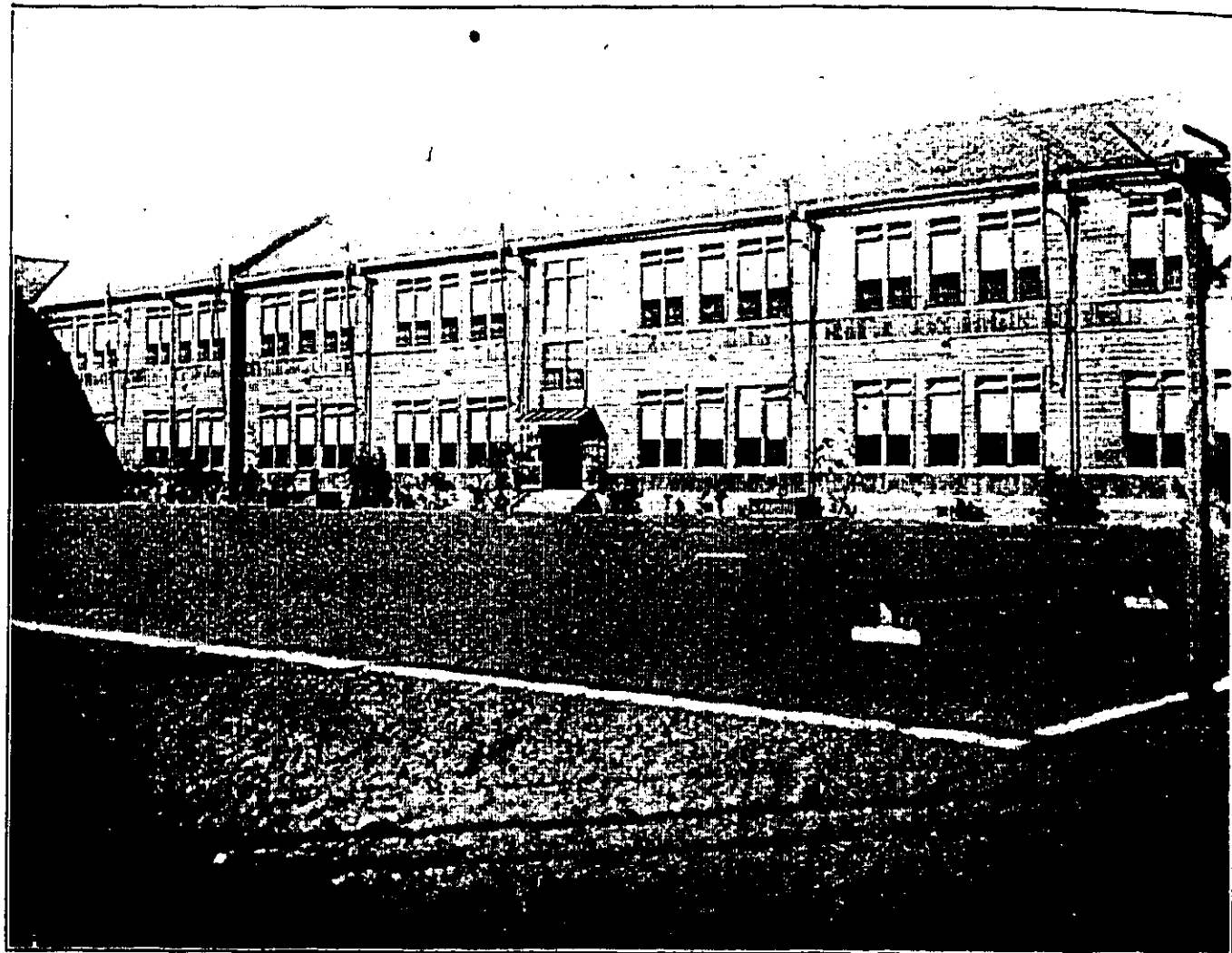
望遠署防消 圖六十第



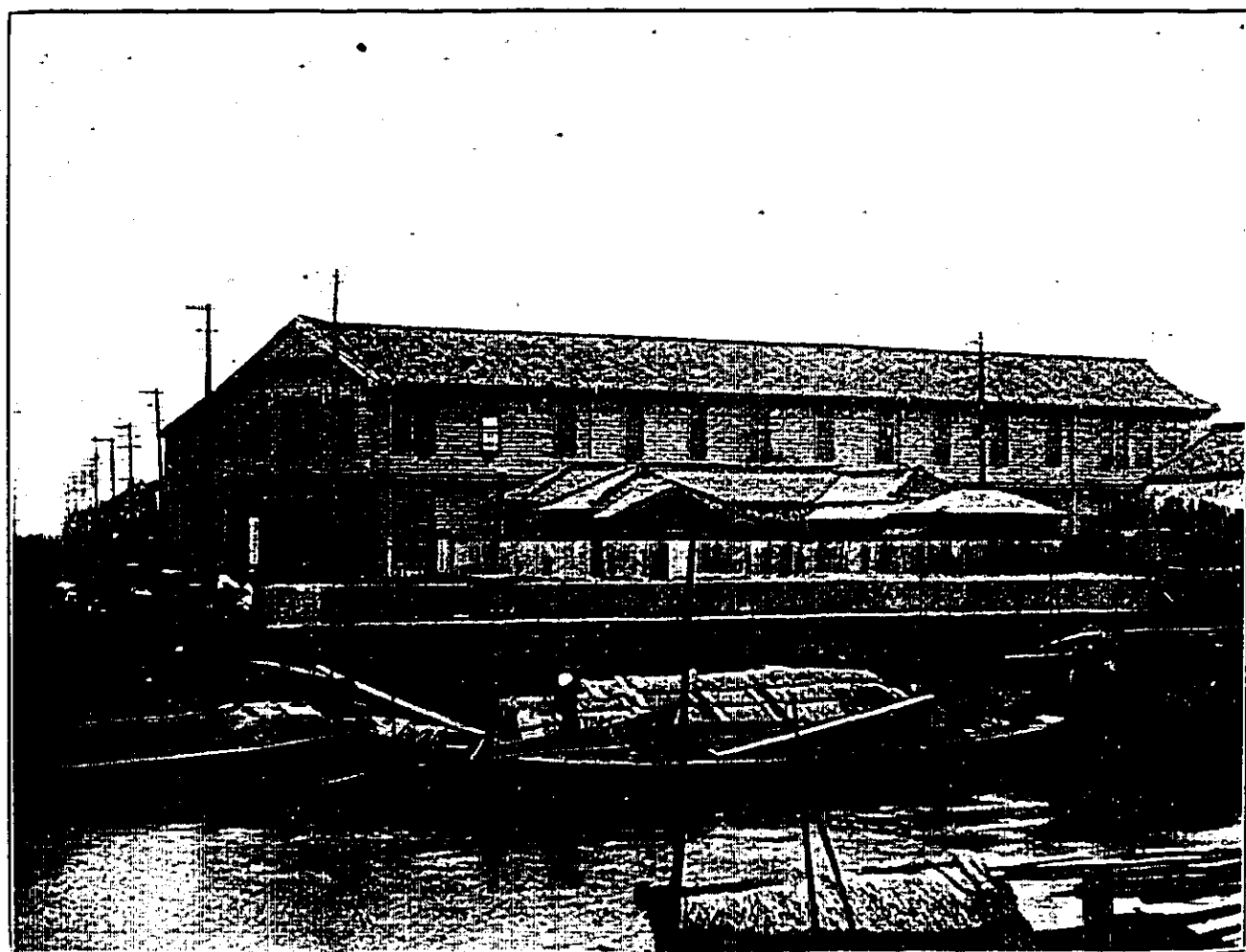
所監島月署支關稅京東 圖九十第



所濟救難水 圖七十第



場動運校學小常尋二第島月 圖二十二第



校學小常尋島佃 圖三十二第



校學小常尋一第島月 圖十二第



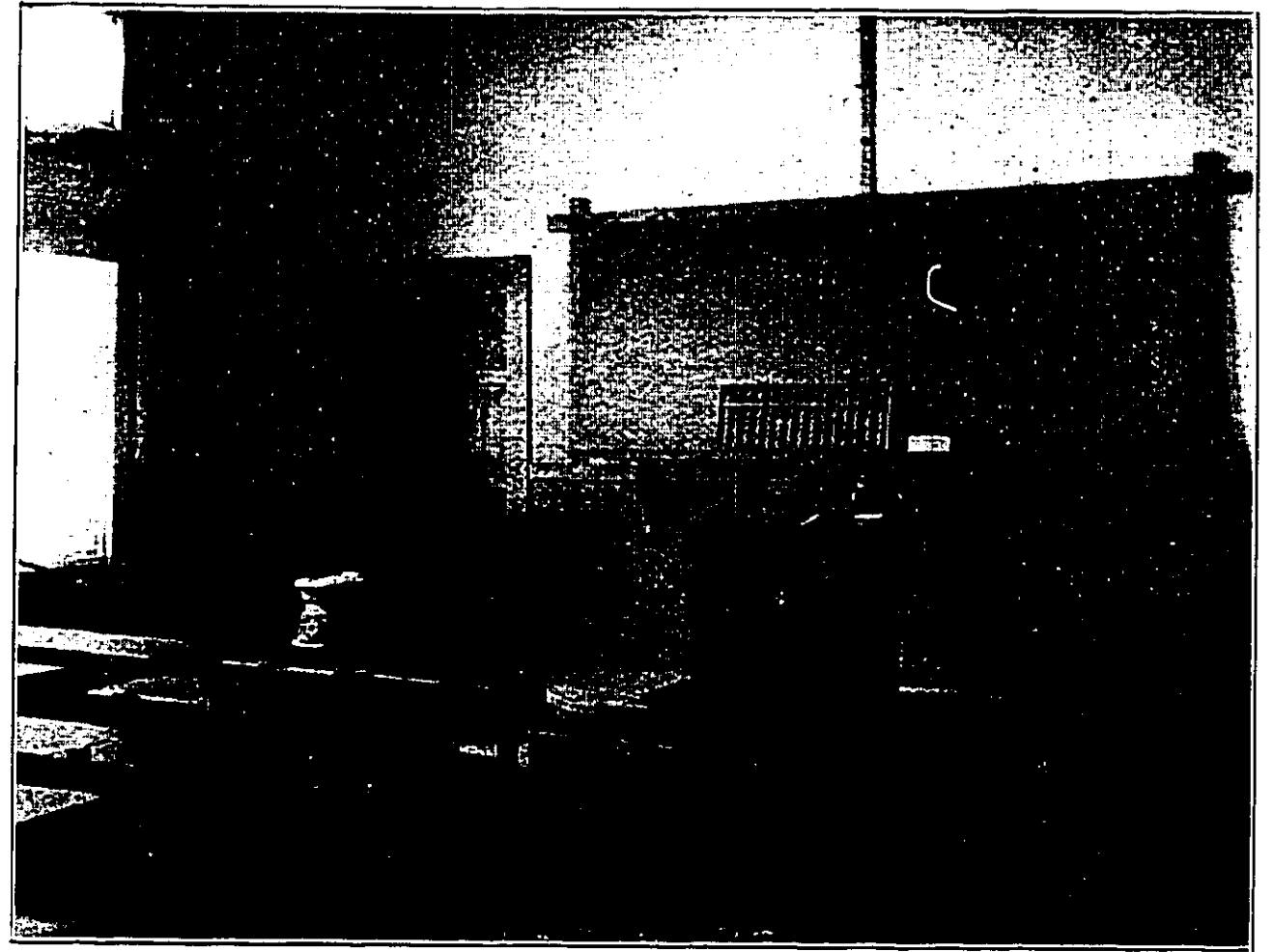
校學小常尋二第島月 圖一十二第



所教說教理天 圖六十二第



場教說宗真 圖七十二第



室教校學小 圖四十二第



室教縫裁 圖五十二第

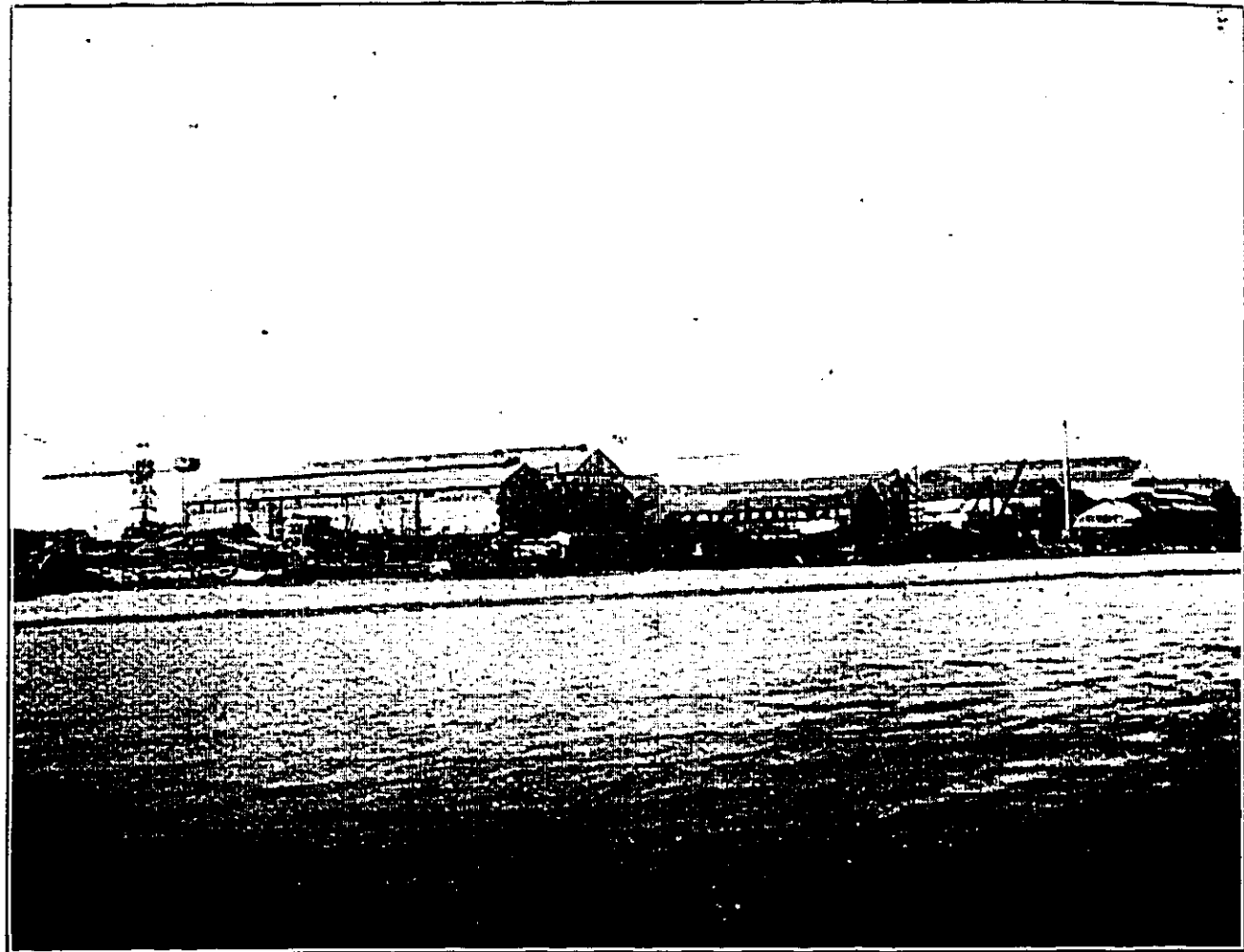
第三、工場の外観及内部

石川島、新佃島の一部、月島一號地及び二號地の東半部に亘り殆ど全島の三分の二は工場乃至それに從屬せる職場、材料置場等の占むる所である。石川島の造船所は東京に於ける有数の大工場の一であるが、他は其規模より見て中工場以下である。機械製作の工場は概して整頓せる外観を呈せるが、鑄鋼、鑄造、製罐の工場は作業の性質上雑然たるものが多い。殊に三號地には工場の設立を許さぬ爲め小屋掛の假設仕事場を見る。

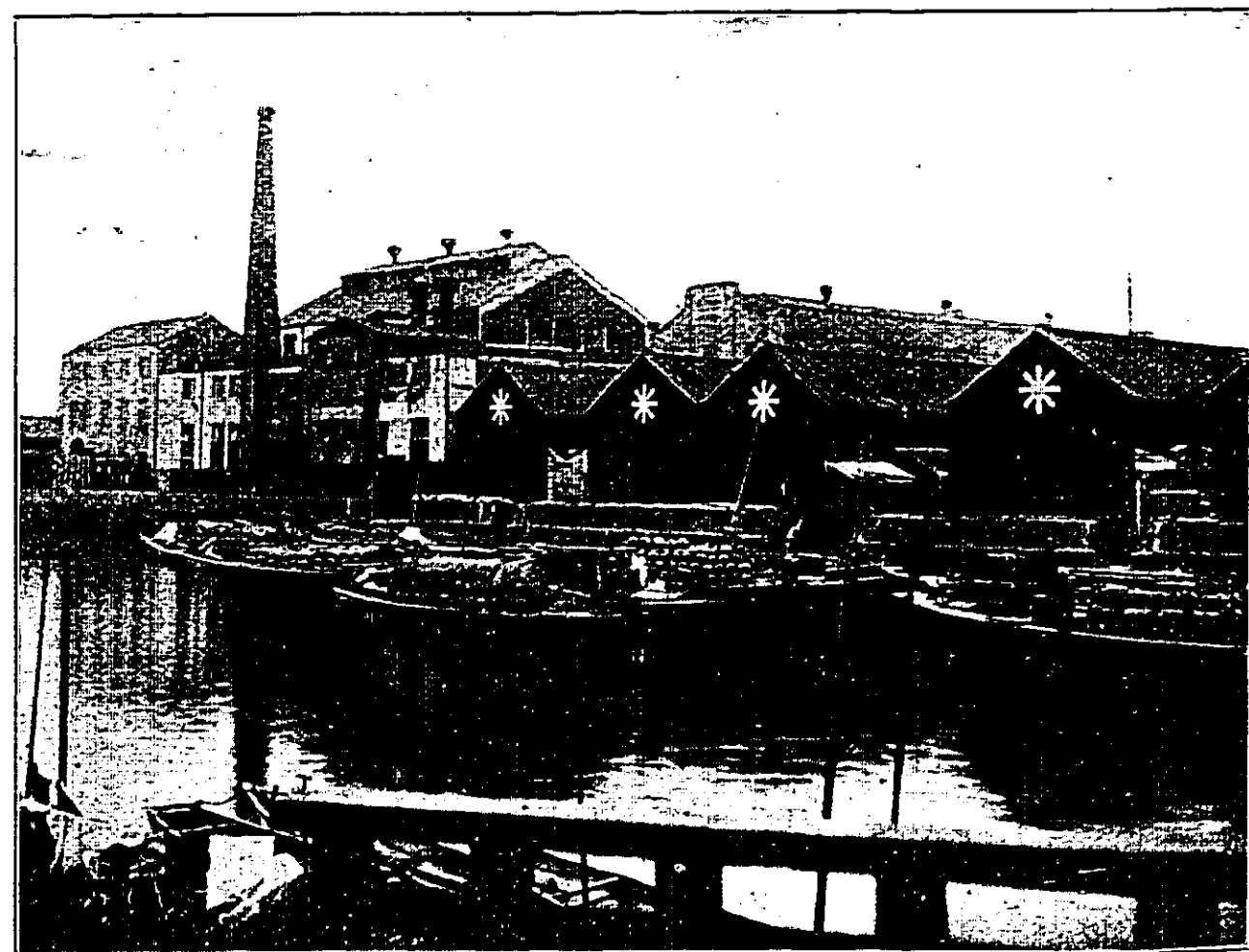
機械製作工場の内部は操業の精緻なるに従ひ、複雑なる機械の配列と運轉と、自ら別箇の天地の觀がある。茲に抽出した機械製作工場内部一—六はデイズル船用機關(第四十五圖)製作の過程である。

製罐工場の内部は製罐操業の性質上廣き空地を要し、工場建築の概ね粗雑なバラックなるは、機械製作の如く精緻な機械作業を缺き、且つ其大半が屋外操業なるが爲めである。製罐工業の一部門なる橋梁に就ての操業の如きは街路上で爲さるゝ事が稀ではない、圖中「製罐操業二」及び「同、四」は之である。

月島の少年労働者には他に多く見るが如く、化學工業、飲食物工業に使役せらるゝ者殆どなく、月島の主要工業の鐵工業なるに制約せられて居る。「少年労働者一」は製罐工場に於ける輔吹きであつて、此種の労働に少年が最も多く願使せらるゝ所である。



所船造島川石るた見りよ岸對 圖八十二第



(庫倉所米精は景前)場工作製械機 圖九十二第



第三十二圖 板金細工工場(一)



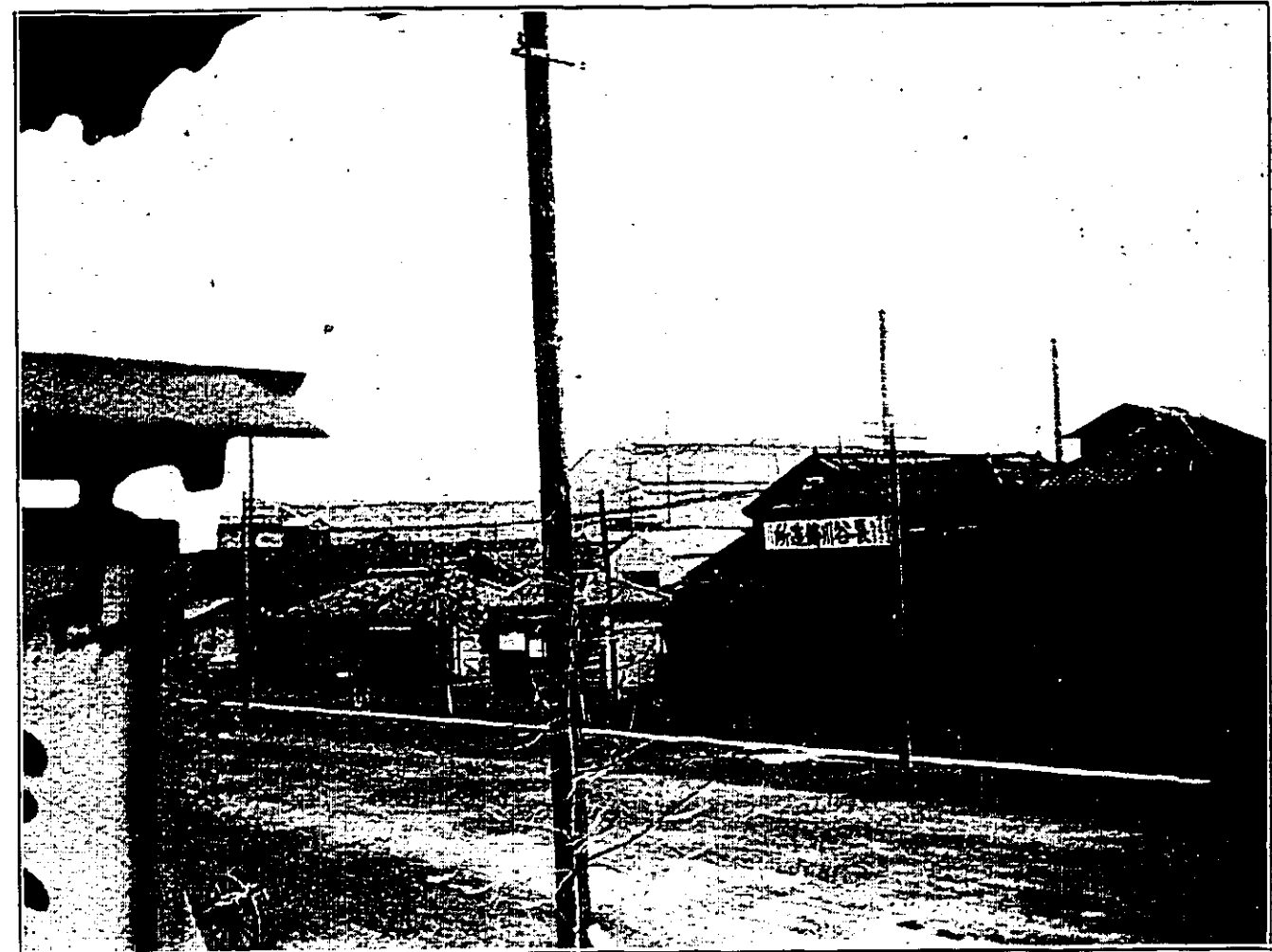
(二)同 圖三十三第



場職型木 圖四十三第

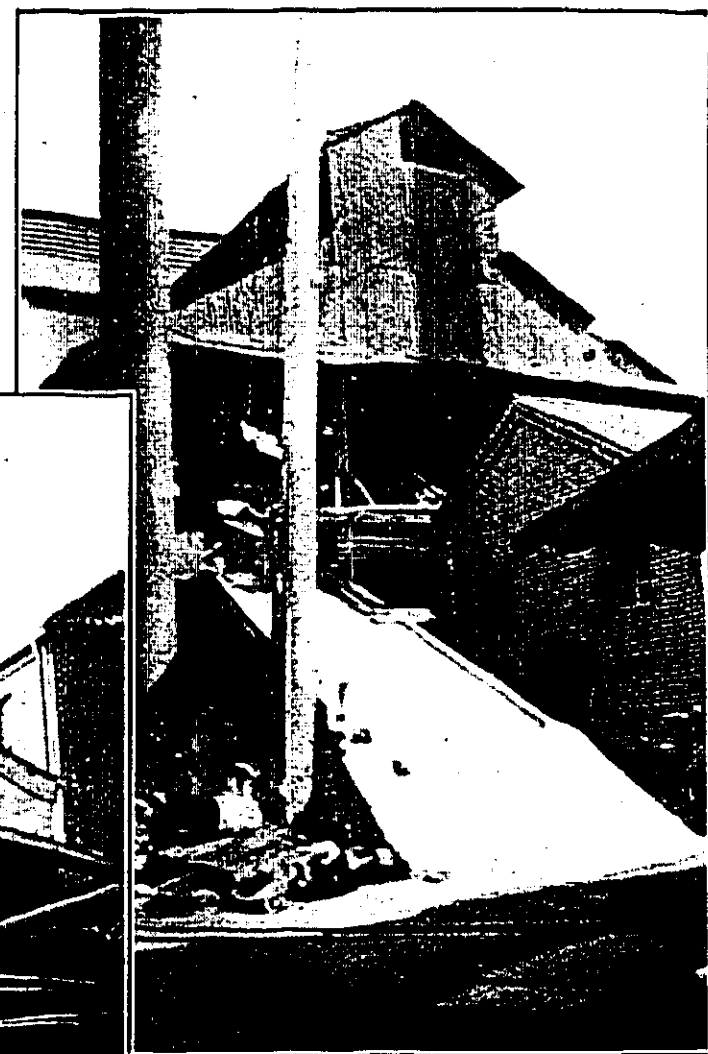
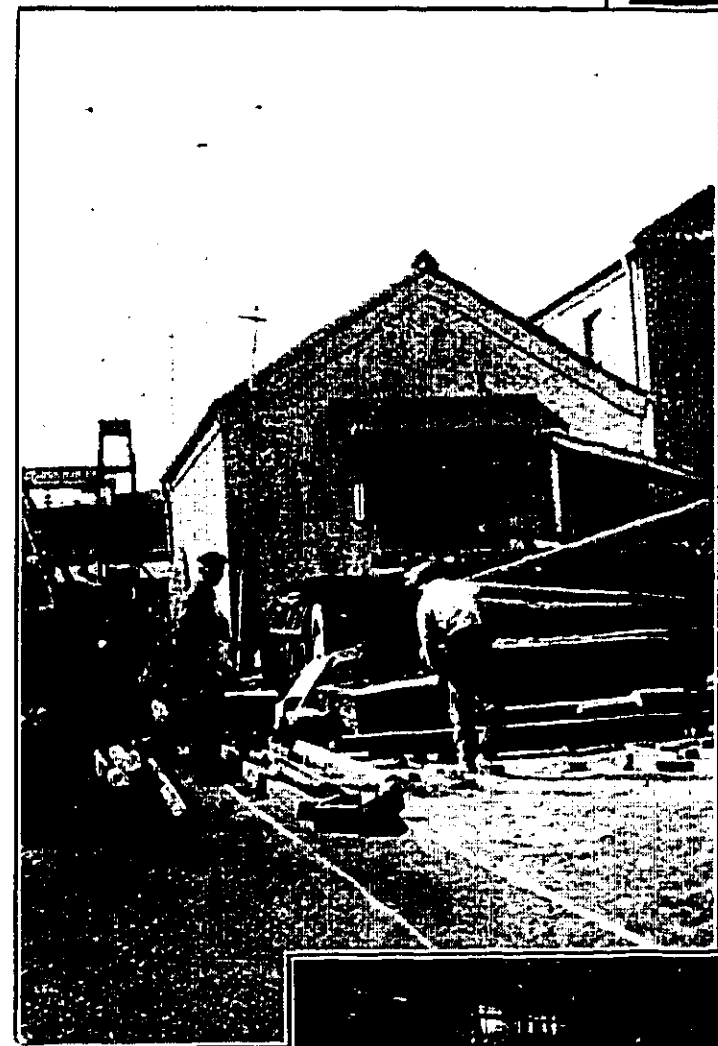


場工作製械機 圖十三第



觀概域地場工 圖一十三第

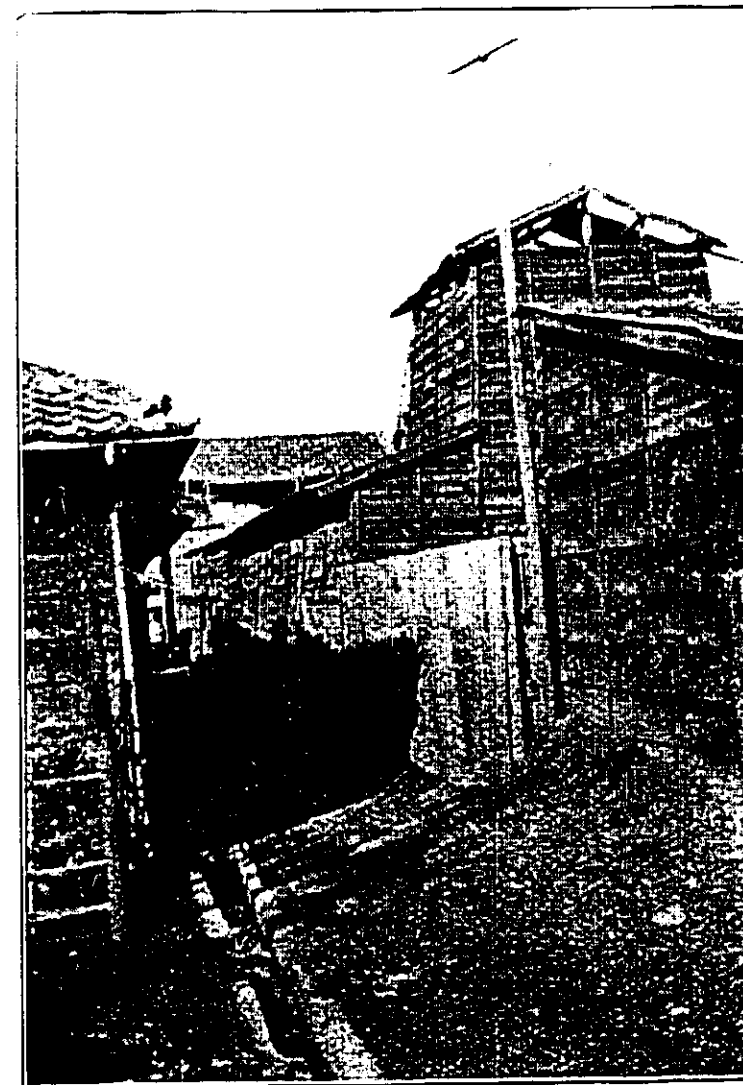
同 圖八十三第



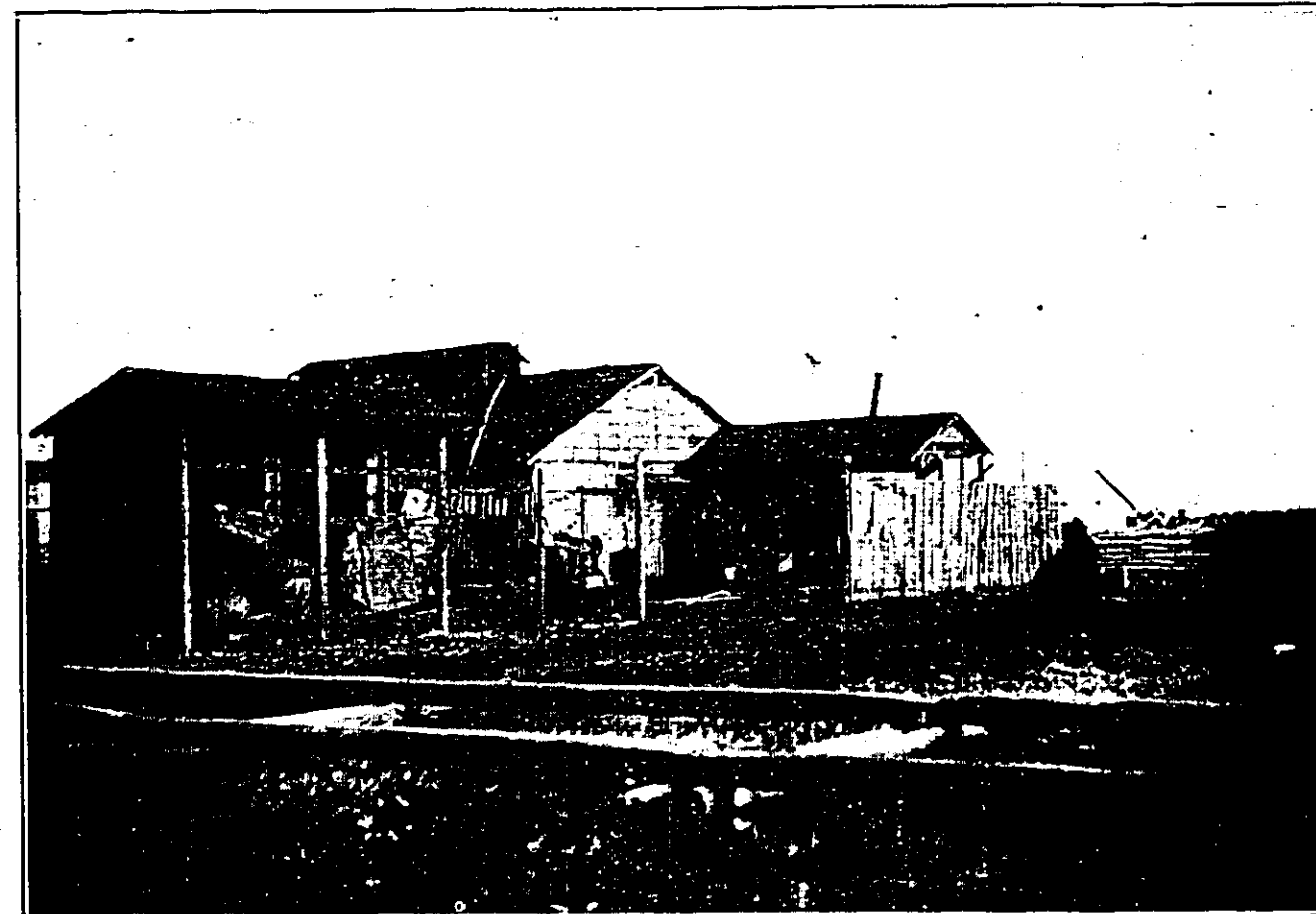
場工鋼鑄 圖七十三第



部內場工物鑄 圖九十三第



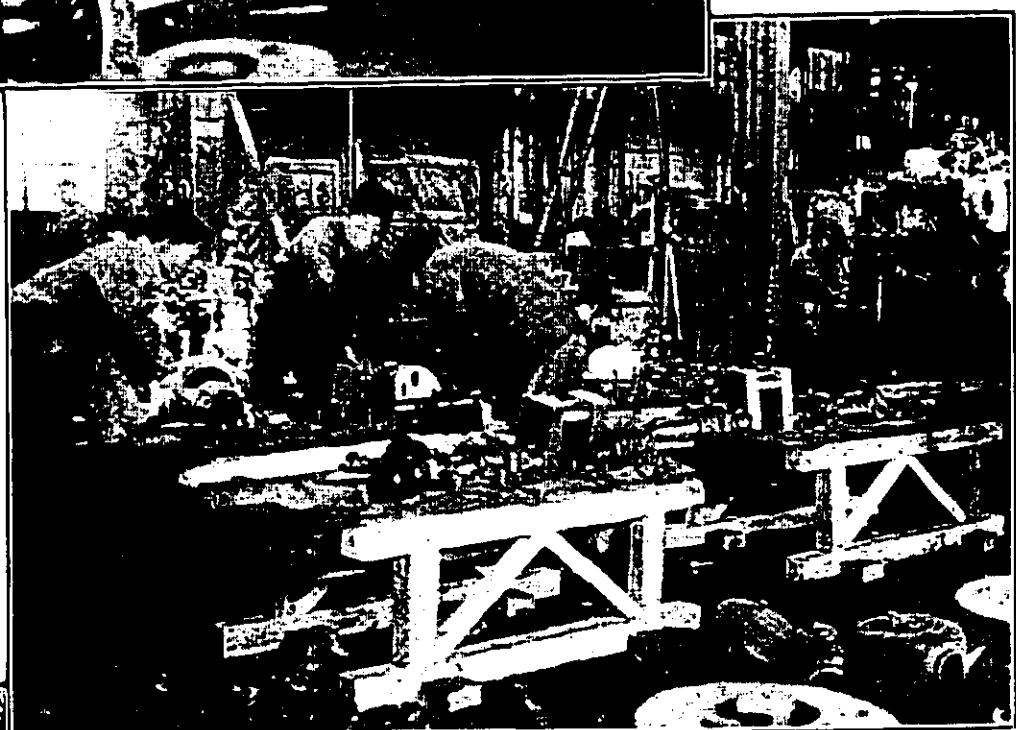
觀外場工物鑄 圖五十三第



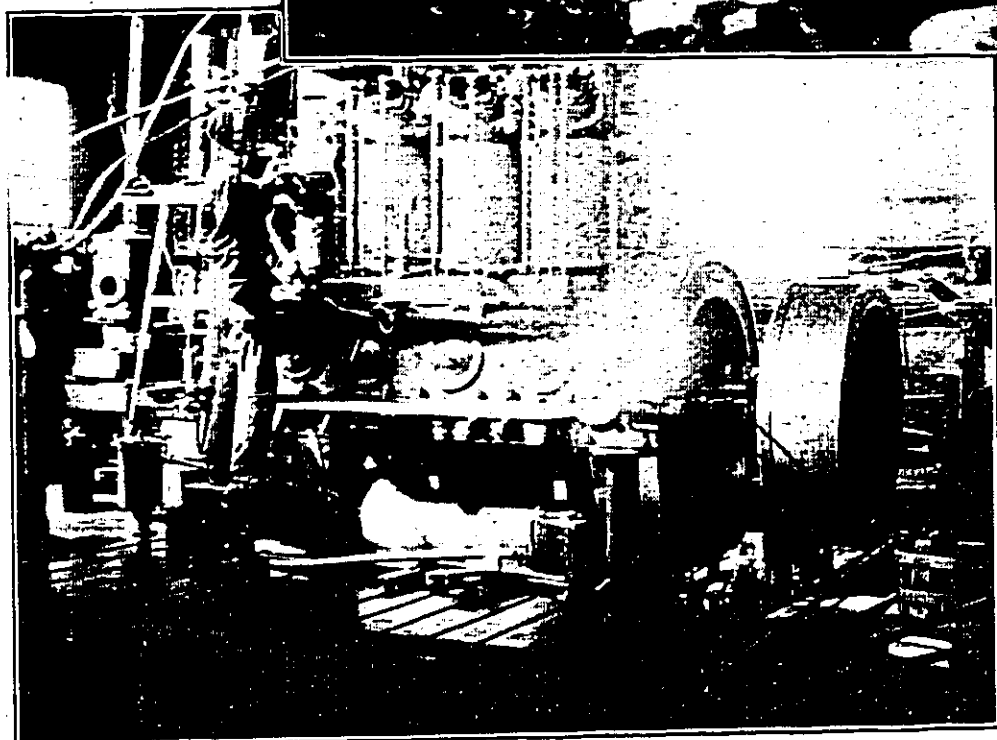
(在所地號三)場工設假 圖六十三第



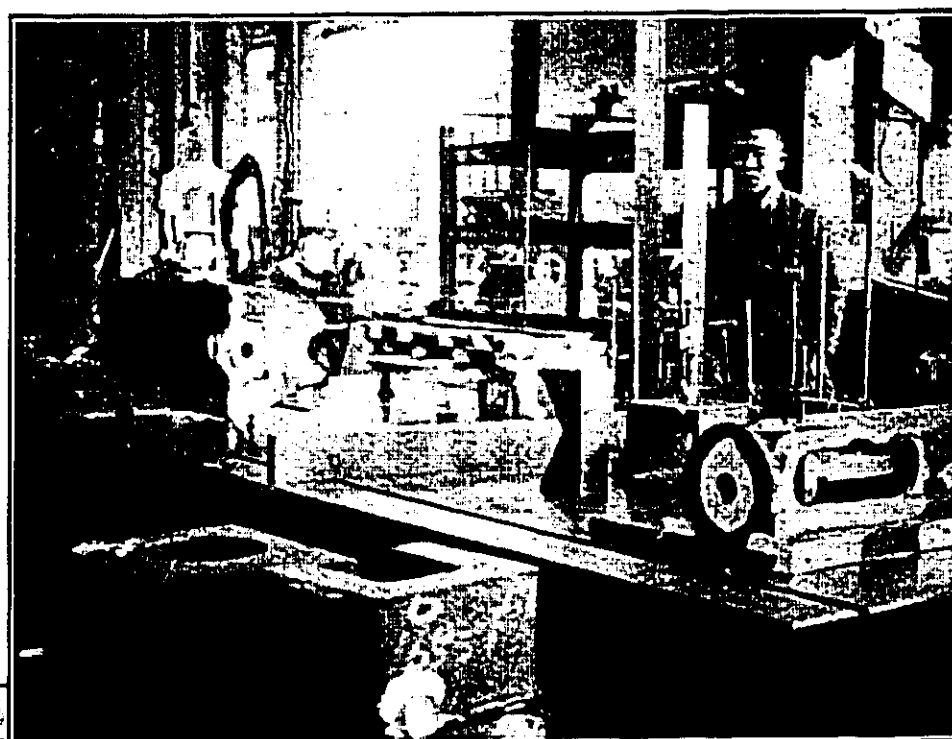
第四十三圖
機械製作工場內部四、(仕上)



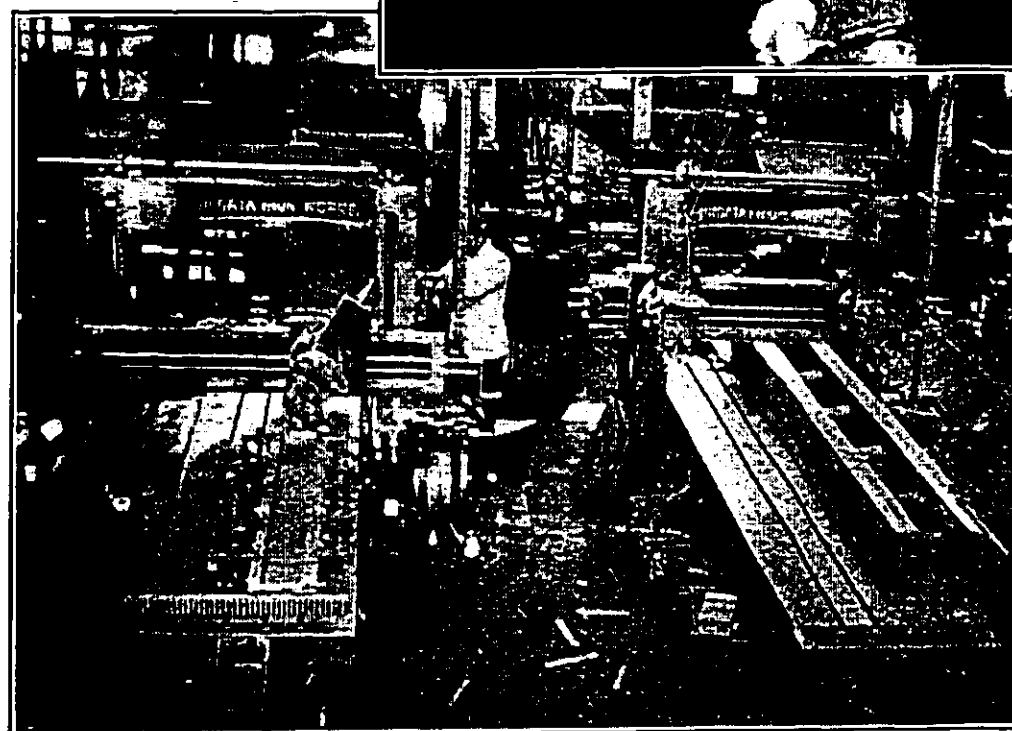
第四十四圖
同五、(組立)



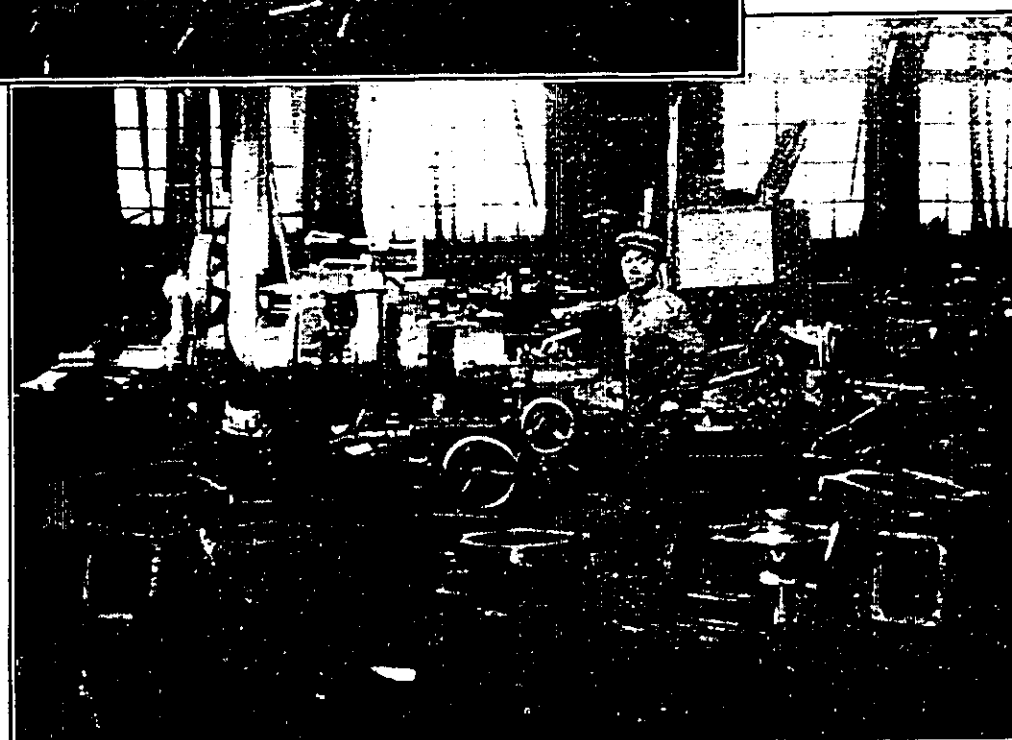
第四十五圖
同六、(製品検査)



第四十圖
機械製作工場內部一、(削書)

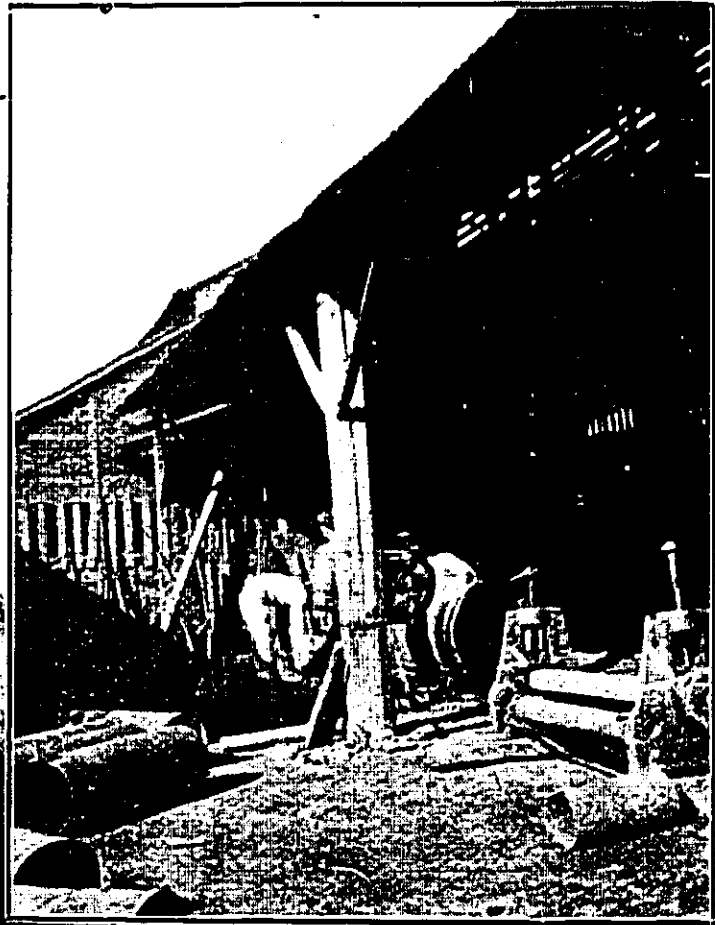


第四十一圖
同二、(旋盤)



第四十二圖
同三、(旋盤)

ち 打 鉄 岡十五第



第四十九圖 製鐵工場内部(四)



第五十一圖 爐仕事



接熔素酸シリチセソ 圖二十五第



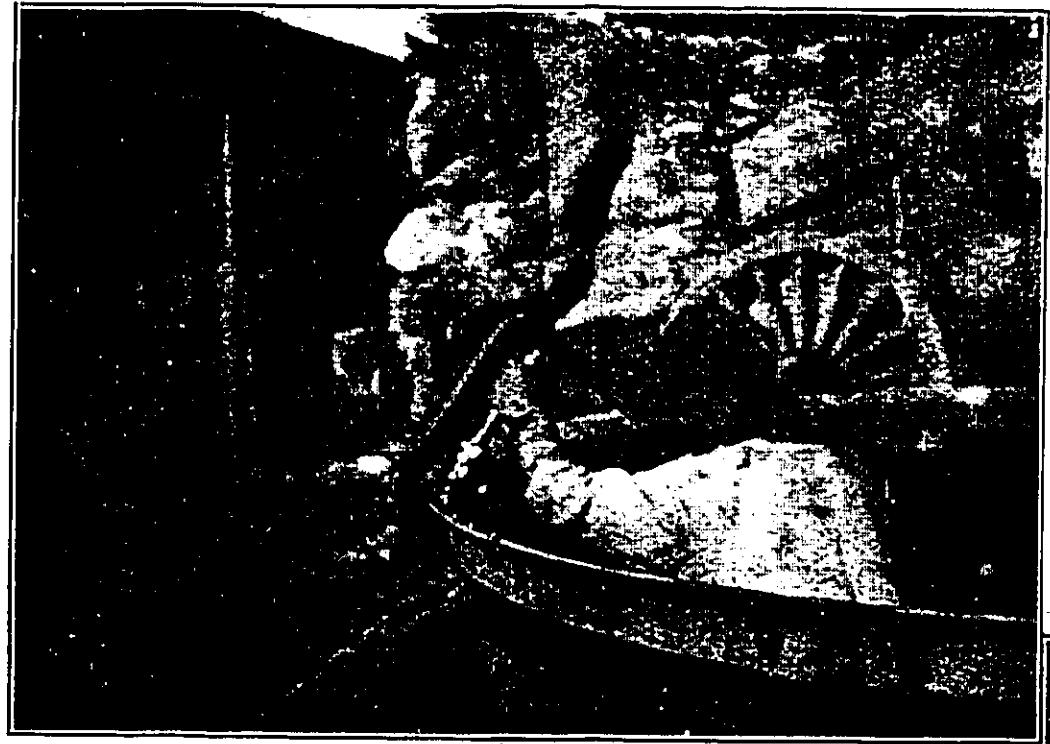
第四十六圖 製鐵工場内部(一)



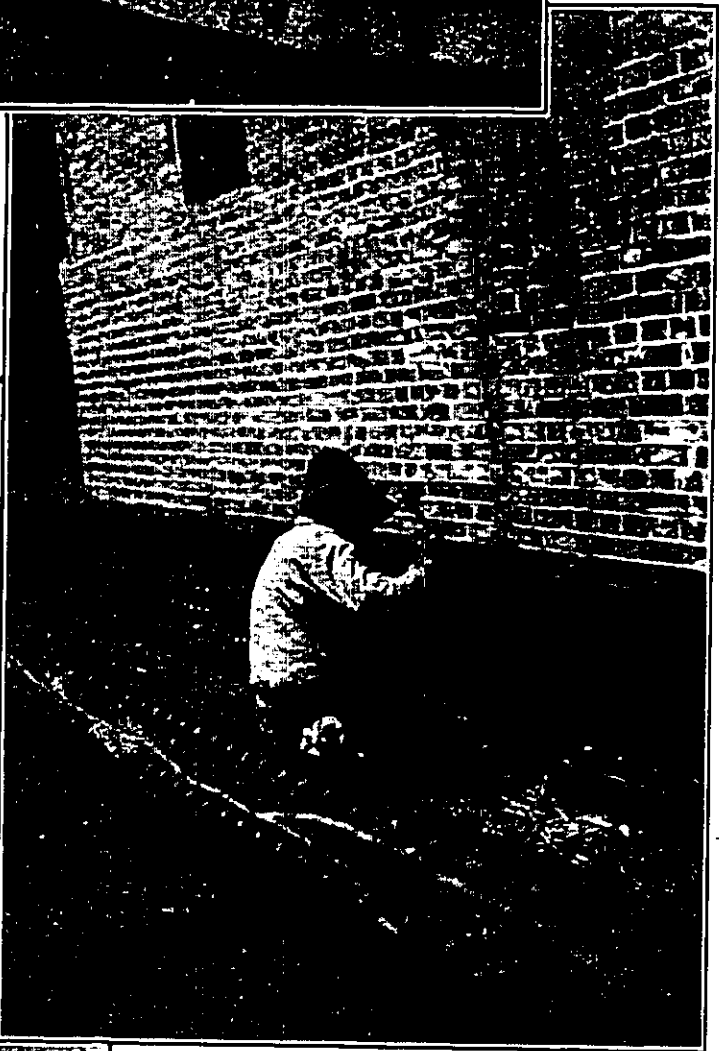
第四十七圖 同(二)



第四十八圖 同(三)



第五十五圖 製罐操業(三)



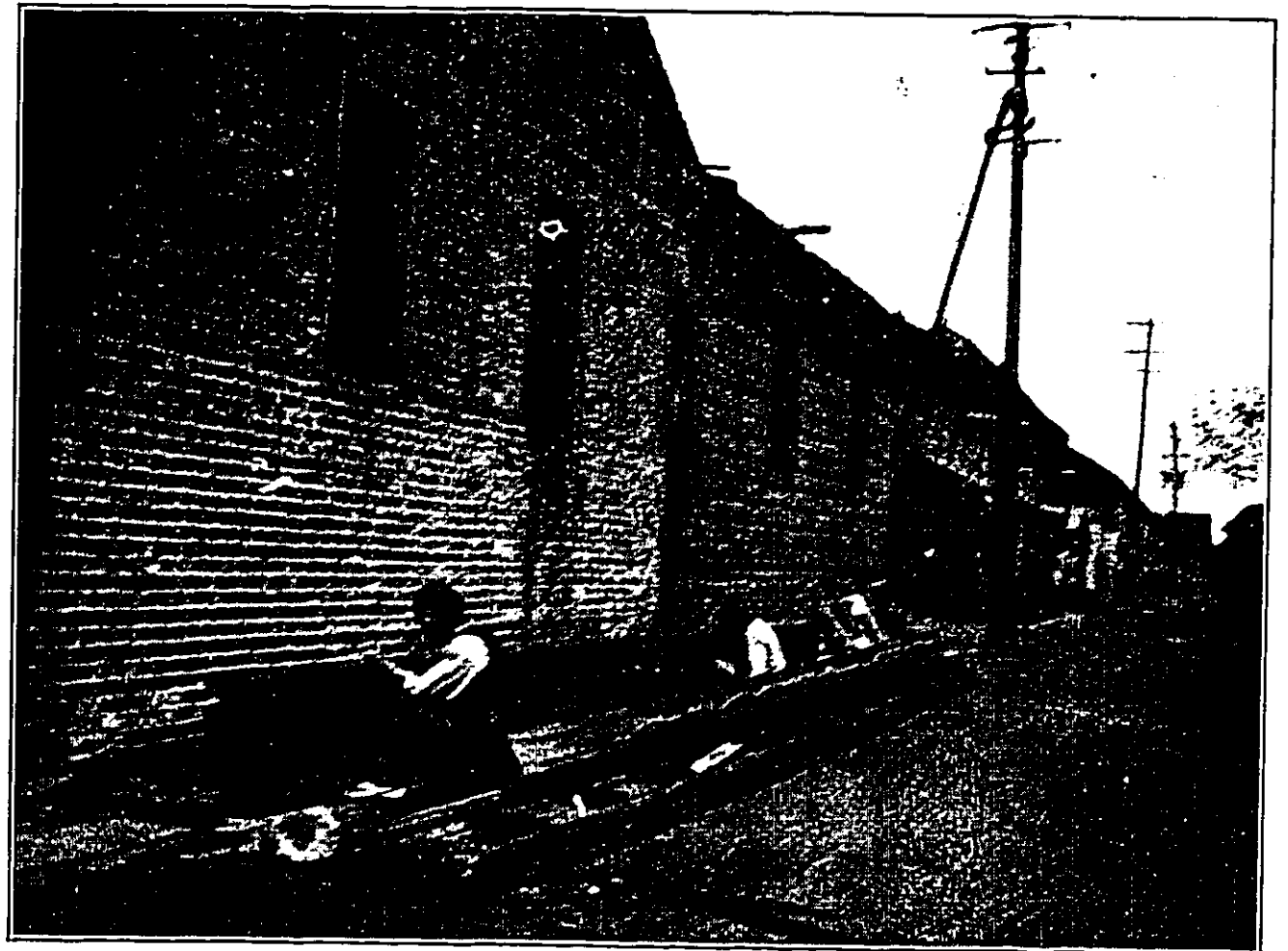
(四) 業操罐製 圖六十五第



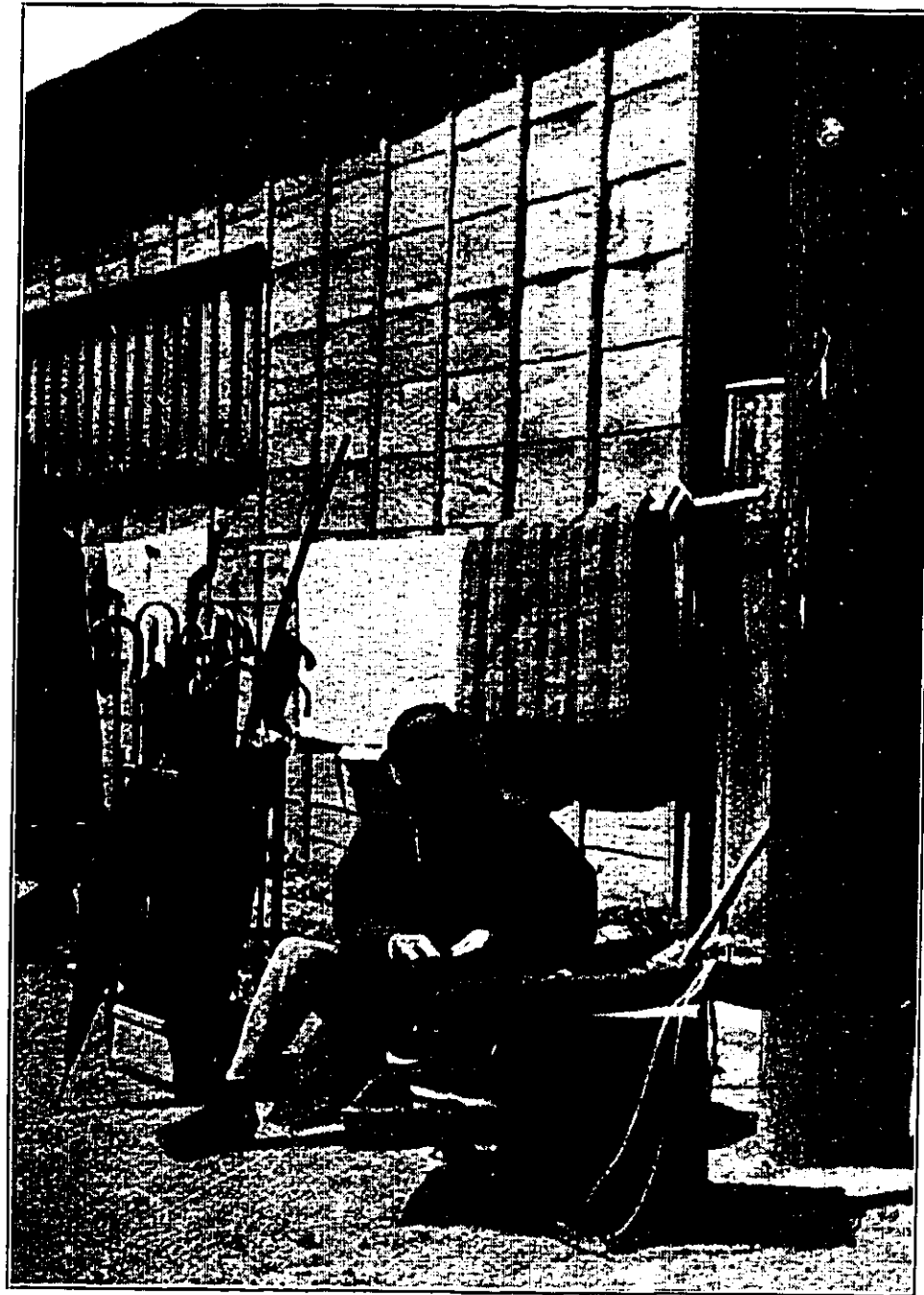
工 罐 製 ⑤ 圖七十五第



(一) 業操罐製 圖三十五第



(二) 業操罐製 圖四十五第



職 し 直 傘 圖一十六第

第五十八圖 少年労働者 (一)



(三) 同 圖十六第



(二) 同 圖九十五第

第四、労働者住宅

労働者住宅の集中せるは、新佃島の北半部西町二丁目、三丁目、一號地の西半部、二號地の中央部等であるが、工場と工場との間隙、一號地西仲通商店街の如きも、一步裏路次に足を踏み込めば、到る處労働者の住居ならざるはない。路次の極めて陋穢なるも、必ずしも月島の労働者の生活程度の低きも物語るものではない。大正六年秋の海嘯の瀆した慘害の痕跡であつて、家屋所有者が家屋改善に毫も顧慮せざるに因る場合が多いのである。二階建の長屋には、海嘯以後、少なくとも比較的新しく建築せられたるもの多く、階上階下世帯を異にせるが普通である。

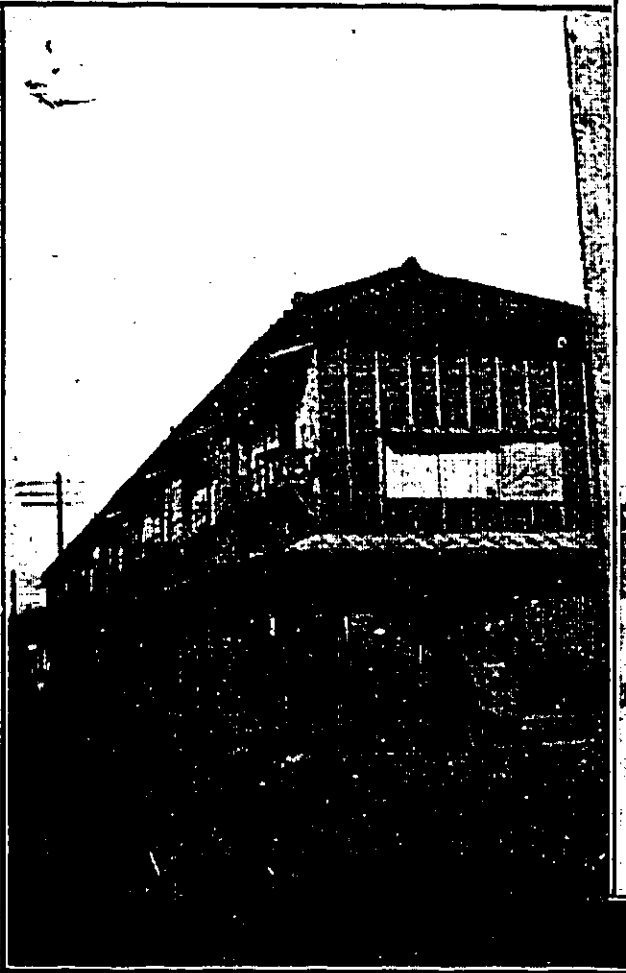
第六十二圖 勞働者住宅(一)



第六十四圖 同(三)

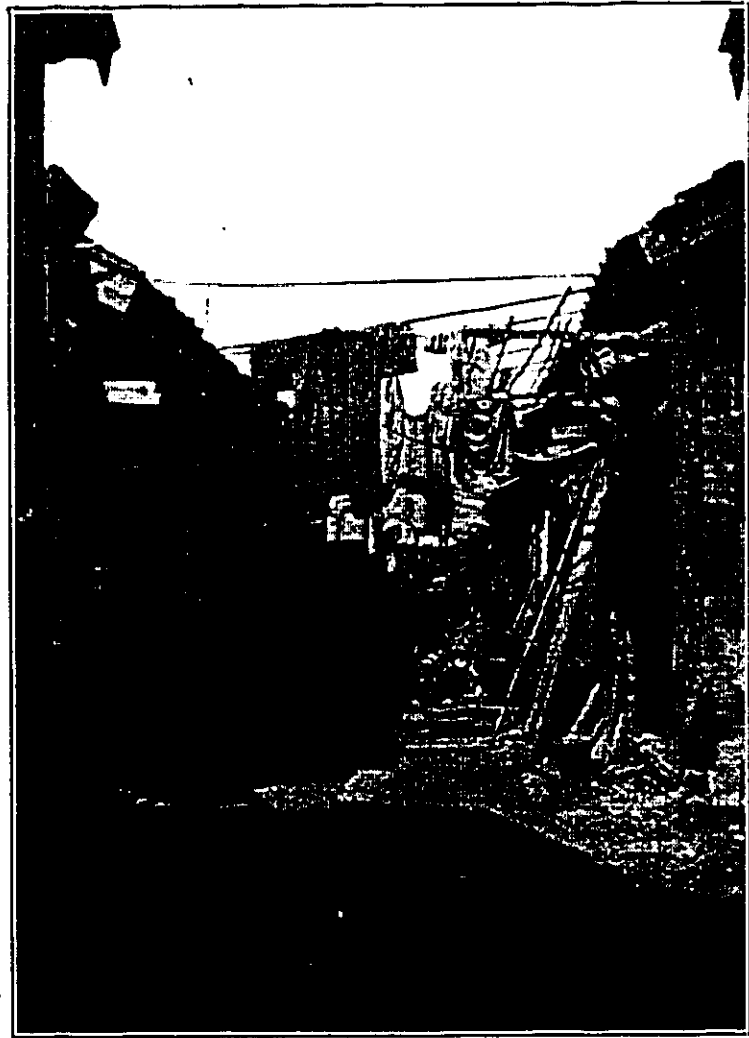


第六十三圖 同(二)



第六十五圖 同(四)





(三の共) 次路宅住者働勞 圖八十六第



(一の共) 次路宅住者働勞 圖六十六第



(四の共) 同 圖九十六第



(二の共) 同 圖七十六第



第 三 十 七 圖 下 宿 屋



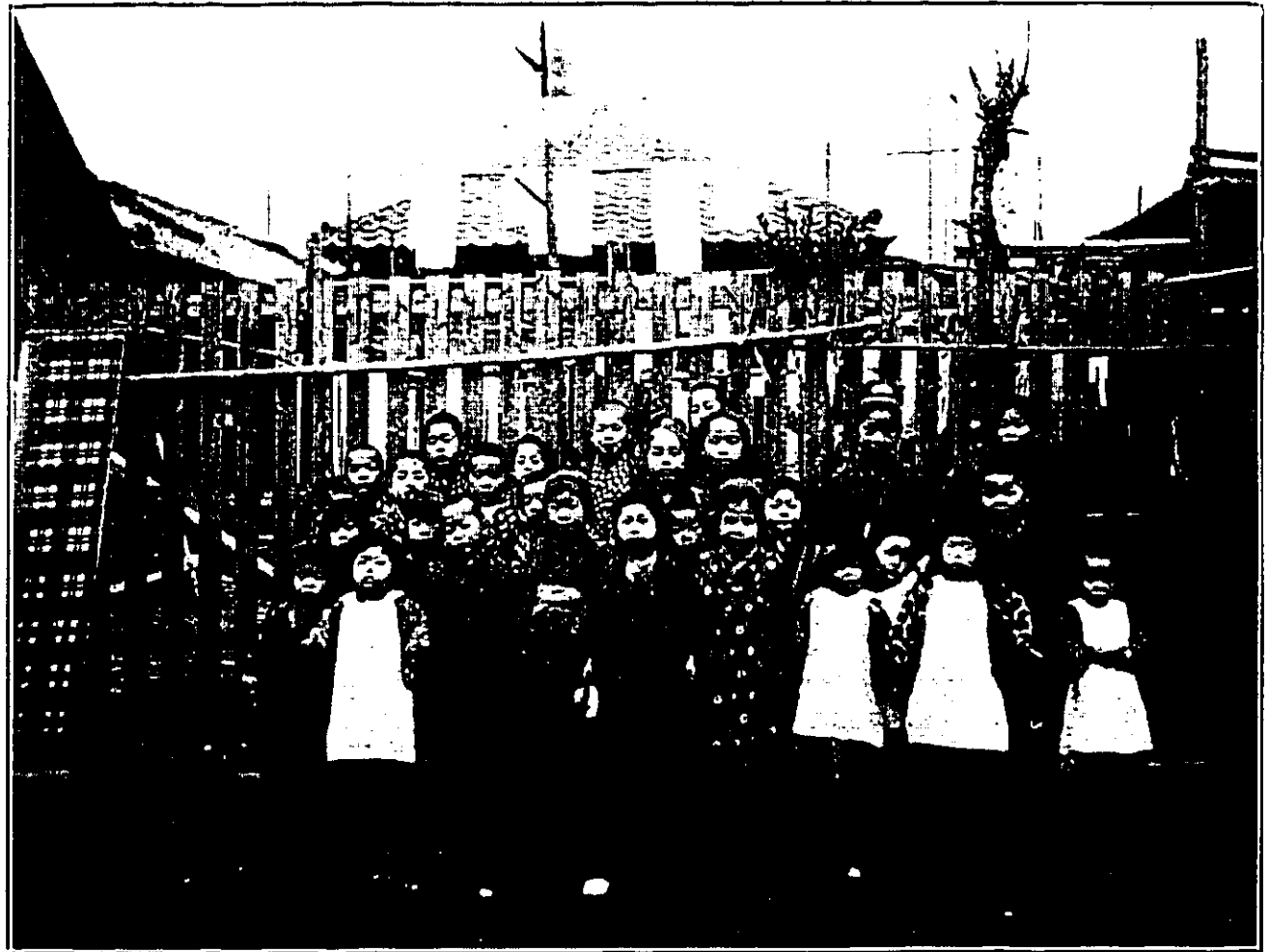
第 七 十 圖 勞 働 者 住 宅 入 口



第 七 十 一 圖
水 道 共 用 栓



第 七 十 二 圖
總 後 架



(一) 女子の者働勞 圖四十七第



(二) 同 圖五十七第

第五、衛生的的設備

島内に醫院數箇所あり。病院として最も大規模なるは新佃島東町にある海岸病院である。湯屋は數箇所あるが、何れも繁昌の様様である。蓋し勞働者に對する衛生並びに慰安の必然的要求が然らしめたるものであると思はれる。殊に著しい現象は理髮店の割合に多きことである。これも亦勞働者の慰安として寧ろ當然なことであつて、甚だ繁忙の有様に見受けられる。但し此の理髮店に於ける各種の設備に於て遺憾少なからざるは注意せねばならぬ點であると考へる。